

国際社会の一員として、Well-being を実現しようとする児童の育成

—SDG s を意識した教科横断的な学びを通して—

千葉大学教育学部附属小学校 教諭 土屋 京子

《研究の概要》

本研究は、地球に生きる一員 (Global citizenship) として社会貢献をしていこうとする児童の育成を目指し、SDG s を意識した学びを教科横断的に扱った。その際、教師がファシリテーターとしての役割を果たすことで、児童の対話的な学びを取り入れながら、各々の Well-being を見付け出すための Competency (能力) を身に付けることを目指した。本研究を通して、児童が自分らしい形で将来への希望をもち、3年生の発達段階に沿った Well-being を見いだすことができた。

1 問題の所在

未来の予想が困難な時代が加速する 21 世紀に必要な教育として、自分で考えた目標を設定し、個々や社会の Well-being を実現するための社会貢献力を身に付ける教育が重要となる。

OECD Education Learning Compass (学びの羅針盤) においても、「自分のアイデンティティをしっかりと持ちながら、自分がしたいこと、すべきことを行動に移すことができる Agency (学習者) 教育」は、「21 世紀型スキル」となることを提唱している。OECD の Well-being 指標と、国連から出されている SDG s 指標の理念が重なっていることから、地球の未来を考える上で、SDG s と Well-being は、Global Citizenship 教育^{注1}として、重要な役割を果たしていることが分かる。

日本の学習指導要領「総則」では、「国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成」と「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童の育成」が掲げられており、ここでも SDG s の必要性が提唱されている。

また、千葉市教育センター「キャリア教育ガイドブック」(2018) にも、「社会の中で、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく子供たちの育成」が目標として示されており、学校で学ぶ内容そのものが Well-being に直結している。

しかし、小学校では「学校知」が偏重され、社会の激変と繋がり、学ぶことの意味が深く関わることがな

いまに、学習が進められる傾向にある。テストの点数で評価された児童は、学びへの意欲を低下させるだけでなく「自分のアイデンティティ」を見失い、Well-being の実現どころか、自己効力感が低下してしまう様子が、出会った児童の中で見られた。

日本も、Well-being に向かう Global citizenship 教育の必要性について、OECD や文部科学省の学習指導要領などで示されている。しかし、習得した知識をどのように活用をさせていくのか、社会とつながるカリキュラムをどのように編成するのかといった具体的な手段が十分に示されているわけではない。

そこで、未来の予想が困難な時代を生き抜く力を教育する具体策として、「SDG s を意識した教科横断的な学び」が有効的であると考えた。

先行事例として、OECD より出されている「Self-efficacy 自己効力感」において、デンマークやフィンランドの例が提示されている。この2国では、自己効力感を高め、Well-being の実現に向かう意欲を高める手段として、①教師がファシリテーターとしての役割に徹すること②SDG s を意識した学びや対話的な学びを取り入れるなどの取組を行っている。

これらを参考にしながら、千葉市立新宿小学校 (前任校) の児童に合った形で学習に取り入れることで、SDG s を意識した教科横断的な学びが、児童の自己効力感を高め、よりよい国際社会を創る意欲を高めるために有効であると考え、本研究を行うこととした。

2 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

SDG sを意識した教科横断的な学びを实践することで、児童が国際社会の一員として自己効力感を高め、Well-being を実現しようとする事ができるのかを検証する([資料1])。

(2) 研究の方法

- ① 北欧の先行研究について
- ② 3 学年における実践研究
- ③ 児童の意識調査の結果と分析
- ④ 家庭への広がり
- ⑤ 研究成果と課題今後の展望

本研究では次の4つの段階を重ねることで児童を育成していく(TSGW spiral stage)。



[資料1] TSGW spiral stage イメージ

第1段階 T (Think the earth)

対話的な学びを通して SDG s を意識した地球の未来を考える。

第2段階 S (Improve Self-efficacy)

対話的な学びを通して、「自己効力感」を高める。本論文においては、「自己効力感」の概念を、地球的課題である SDG s を達成させるために、自分ができることは何かを考え、行動に移すことで成功につながる自信を高めることと捉える。

第3段階 G (Awareness-raising SDGs for Global citizenship)

SDG sを通して、地球に生きる一員としての意識を高める。文部科学省より「参考5 GCED:Global Citizenship Education (地球市民教育)」と提唱されているが、本論文では、地球市民を「国際社会の一員」として捉える。

第4段階 W (Act for Well-being that is “the future we want”)

Well-being の実現に向けて行動する。Well-being とは、「多様性の受容・それぞれの幸福」等を意味する。本論文においては、3 学年の児童が、国際社会の一員として、自分で考えた目標を設定し (“the future we want”)、社会貢献をしようとする姿を Well-being と捉える。

3 研究の実際

(1) 北欧の先行研究について

デンマークの教育では、「Crossing borders」(国や文化、人それぞれがもつ考え、視点を越えて、相手を限定することなく広い心で世界を見て学ぶ)という考え方が浸透している。「自分らしさ」を大切にしながら、自他を尊重すると共に、将来は国や世界のために役立つとする国民を育てるために、学校教育の中では対話的な学びを重視している。また、SDG sを意識した教科横断的な取組を行っている。フィンランドでは、Trust(信頼), Respect(尊敬), appreciate(感謝), Individual(個人を大切に), Well-being(多様性の受容・様々な形の幸福)を掲げ、「対話」を中心とした学習内容を教科横断的に扱っている。また、一斉授業はデモストレーションの時間(10分程度)のみで、講義式のやり方で授業を行う形が少ない。教師は、ファシリテーターとしての役割に徹している。「対話」を通して自己効力感を高め、SDG sを意識しながら、Well-being の実現に向けた学習を重ねている。

(2) 3 学年における実践研究

対象学級 3 年 2 組 32 名

実施期間 2021 年 4 月~2021 年 12 月

① SDG s を意識した教科横断的な学びの実践前半

年度初めには、教科学習の中で、SDG s 17 の目標

につながる内容を取り上げ、教科横断的にSDGsを扱う計画を立てた(〔表1〕)。中学年の入り口ということもあり、SDGsという言葉を目前に出すのではなく、自然にSDGsを意識できるスタートにした。

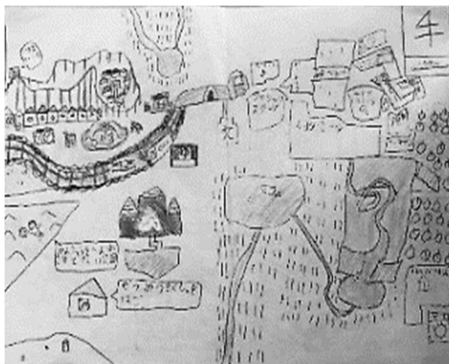
〔表1〕SDGsを意識した教科横断的に扱った学習の一部

月	教科・教科等その他		教科・教科等その他	
	特に関わるSDGsとTSGW		特に関わるSDGsとTSGW	
4月	(国)春のくらし 16T	総合的な学習の時間 「千葉市を紹介しよう」 をテーマにして、千葉市のSDGsを考えた。①-キ	(国)おたけいっしょたてまな 2T	16TS
5月	(社)学校の周りや地域の様子 ①-ア 11T		(学)世界で一番強国って? 16TS	
6月	(外)Hello!世界の挨拶 10TS	(学)みんなの目標や願い ①-イ 17TS	(学)ひかりちゃんストーリー 17TS	15TS
7月	(社)千葉市の様子 ①-キ 11TS	(国)ごめんね、サルビアさん 15TS	(国)赤ちゃんもご飯たべてるよね ①-ウ 2TS	
8月	(算・理)自由研究 9TS	スーパーマーケットでは、外国から輸入している品がたくさんあることを知った。近年、感染症の影響で、食料輸入が難しくなっていることから、千葉市が持続可能な町として、産業の活性化に目を向けるような内容	(国)カカオ農園の子供たち 8TS	10TS
9月	(社)店の仕事 8TS	(国)「おもてなし」ってなあに 10TS	(国)同じ空の下で同じく学生生活 ①-オ 17TS	
10月	(国)3年生で成長したこと ①-エ 15TS	①-キ、②-エ	(学)クラス目標の振り返り ①-カ、②-ア 10TS	9TS
11月	(国)意見交換をしよう ②-イ 15TS		(学)クラス目標を作ろう ②-イ 9TS	
12月	(算)あまりのあるわり算 12TS	(国)期の中パットが見える 8TS	(国)海江瑞花子のちようせん 8TS	17T
1月	(社)事故、事件をふせぐ 11TS	(国)光の星 15TS	(学)水を大切に、資源を大切に 6TS	
2月	(国)すがたをかえる大豆 12TS	(学)多文化共生について考える 10TS	(学)1年間を振り返って 17TS	
3月	(理)じしゃくのふしぎ 7TS			
	(外)Who are you? 10T			
	(理)おもちゃショー 9TS			
	(関)けんこうこころい生活 3TS			
	(算)海のかみ曇り見方 14TS			

ア 〈社会科〉「学校のまわりや地域の様子」

TSGW spiral stage 1

前任校の周辺にある施設を調べる学習で、「未来はこんな町になってほしい、こんな町にしたい」という思いが児童の中に芽生え、地



〔資料2〕各家庭の浄水設備と自給自足の町

図記号を使いながら、未来のまちづくりを、友達と語り合うようになった。児童は、「魚が住みやすい川や海を残し、環境により植物の成分を使った洗剤を全家庭が使用するようにして、各家庭の中で浄水の設備を作り、海や川に家庭用水を流さないシステム作りをする。自給自足の田畑を広げたり自然環境を創ったりする」と提案し、理科や総合的な学習の時間を教科横断

的に考える様子が見られた(〔資料2〕)。

イ 〈学級活動〉「みんなの目標や願いを伝え合おう」
TSGW spiral stage 2

世界の子供たちの現状を知ること、今まで意識しなかった給食への取組や、身近な環境問題等に目を向ける時間となった。友達との対話を通して、「宿題プリントを大事に保存する」「切った紙を捨てずに次の図工の時間に使えるコーナーに入れる」など、日常生活で物を大切にすることを考えるようになってきた。児童の変化が見えるようになってきたので、道徳で学んだことを生かし(教科横断的な視点)、クラスの目標を決めて掲示した。この活動を通して、身近なことから、自分にできることは何かを考えるようになった(〔資料3〕)。



〔資料3〕給食への思い

ウ 〈道徳〉「赤ちゃんもごはん食べてるよね」

TSGW spiral stage 2

前任校の3学年児童は、給食の残菜が多いという実態があった。そこで、生命の尊さを題材にした内容を扱い、家族に大切にされていることや、命の基盤の一つとして、「食」が大切であることに目を向けられるようにするため、本題材を扱った。学習の中で、母親は食べるものが無く、子供に栄養を分けることすらできない国や地域もあることを知り、他国や他地域の状況で感じたことを話し合った。SDGsの目標「飢餓をゼロに」に関して、身近なことを意識することは世界にも繋がるという思いをもつ機会となった。

エ 〈国語〉3年生で成長したこと(作文)

TSGW spiral stage 3

「3年生になって成長したと思うこと」について、友達との対話を重ねた上で作文を書いた。児童の中には、「SDGsを知ったことで、勉強をする意味や大切さがより一層分かった(教科横断的な視点)。「友達と協力しながら自分にできることをやってみよう(社会貢献への意欲の視点)」といった内容が書かれ、SDGsを意識したことや対話的な学びが、自己効力感に繋がり、社会貢献への意欲を高める手掛かりとなった。

オ <道徳科>「同じ空の下で同じ小学生は」

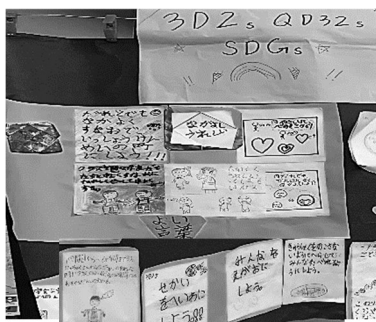
TSGW spiral stage 3

小学生と同年代の「地球の裏側で過ごす子供たち」の生活を知った。児童は「かわいそう」「自分は恵まれている」という気持ちよりも、「今」を過ごす自分が「一日一日を大切にしてきたのかどうか」等を振り返り、友達との対話を通して、「他国の働く子供たちは、自分の命も家族も、心から大事にしています。見習いたい」という思いを募らせた。

カ <学級活動>クラス目標の振り返り

TSGW spiral stage 3

児童は、給食に関する目標を意識し、食べ物を大切にすることを考えるようになってきた。3年生での実践は、「誰一人取り残さない」ということに



[資料4] クラスの目標

課題を置き、一人一人が物事に心を込めて取り組むようになったのは、本実践を行っている中での変化ともいえる。また、児童は、3年2組というクラス名を使って「3D2s」という目標を考え出し、皆で話し合ったことを振り返ることができるように掲示物を作った。この自主的なSDGsへの取組は、「地球に生きる一員としての意識」を高めたと言える（[資料4]）。

キ <総合的な学習の時間>「千葉市を紹介しよう」①

TSGW spiral stage 4

児童は、興味のある千葉市の施設や施策等を調べてテーマを設定し（「表2」）、自分に合った社会貢献の仕方を考えた。その際、教師側は、「自分はどんなことに興味があるのか」「自分が考えた目標は、SDGsの何番で貢献できそうなのか」などを考えさせ、児童の思いを具現化できるように支援の仕方を考えた（教師のファシリテーションとしての役割）。児童の意欲と教師の支援の歯車を合わせたことで、児童は、SDGsに基づいたテーマを納得のいく形で設定し、自分の目標に合った学びを見出すことができた。また、「将来の夢がはっきりした」と語る児童が増え、「サッカー選手

と農家を両方できるような仕事のシステムを作る」「大工になって、子ども食堂を増やすためにもっと勉強する」等、未来への希望を持つようにもなった。SDGsを意識した学びを通して、国際社会の一員としてWell-beingを実現しようとする姿が見られた。

[表2]「千葉市をしょうかいしよう」テーマ一覧

児童が考えたテーマ	主なSDGs	児童のテーマ設定の理由
住み続けられる千葉市	11	SDGs たっせいスーパーマーケット
千葉市の農業を未来に	4, 11	自きゅう自足の少ない日本を100%にしてそのための教育も考える
千葉の地産地消を増やす	8, 12, 13	地産地消をふやして外国産にたよらない千葉市にする
SDGsを千葉市に推進	16, 17	千葉そごうの進んだエネルギーの取組を、学校教育でも
子ども食堂をおしゃれに	2, 8, 11	もっと、楽しく過ごせる子ども食堂を建てたい
みんなでSDGsに取り組もう	16, 17	SOGOや2020が行っているSDGsやフィンランドのSDGsを参考に
デンマーク教育を千葉市に	4	幼稚園教育や施設など、千葉市にデンマーク方式を取り入れたい
SDGsを町全体に広げよう	11, 17	17の目標がしっかりと組み込まれたシステム作りをする
Finlandを参考に千葉もSDGs	4, 11	環境大国フィンランドを参考に千葉市もSDGsに取り組む
千葉市スーパーに地産地消を	8	お店では地産地消を増やす
千葉市の海洋生物保護	14	千葉市・ベイエリアの海洋ボランティアや、SDGsイベント開発
千葉市のSDGs	8, 11	イオンスタイルの進んだSDGsとは

② SDGsを意識した教科横断的な学びの実践後半

ア <学級活動>キャリアパスポートを通して

TSGW spiral stage 4

32人全員の児童が、「将来の夢」の欄に、総合的な学習の時間で発表した内容を関連付けて書いていた（教科横断的な学びの視点）。SDGsを



[資料5] キャリアパスポート

意識した学びが、児童の未来を切り拓く鍵の一つとなる様子がうかがえた（[資料5]）。

イ 教科横断的<国語>意見こうかんをしよう

<学級活動>クラスの目標をつくろう

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
手紙は身辺住所の目印として大切にする	紙や物を大切にしよう	空気清浄機を大切にしよう	思いやりを大切にしよう	つばを吐かないようにしよう	自分自身を大切にしよう	電気を大切にしよう	水も大切にしよう	人のせいにしてはいけない	形だけじゃなく、心も大切にしよう	ハロウィンを大切にしよう	食料を大切にしよう	心の持ちようを大切にしよう
SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう	SDGsを大切にしよう

[資料6] SDGs17の目標からクラスの目標

TSGW spiral stage 4

今まで積み上げた対話的な学びを生かして、クラスの後期目標を考えた。国語と学級活動を教科横断的に扱い、グループで出し合った意見を全体で集約した。SDG s 17 の目標から、クラス 32 人に合わせて、32 の目標ができた。SDG s を意識した学びと、各教科での学びがつながるような目標となった ([資料6])。

ウ <図画工作>まほうのとびらをひらくと

TSGW spiral stage 1

「扉を開けば、魔法をかけたような世界が広がる様子」を表現する題材である。扉を開ける前は、現在の地球の状態を表現し、扉を開くと未来の美しい地球に生まれ変わっているというストーリーをイメージしている児童が、32 人中 14 人いた。SDG s を意識した学びを、社会科や総合的な学習の時間、道徳等の SDG s を意識した学びを活かしながら、図工でも表現



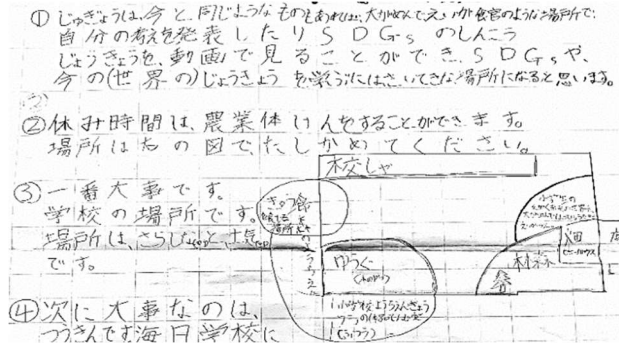
[資料7] イメージ図

している様子があった ([資料 7]) (教科横断的な視点)。

エ <総合的な学習の時間>「千葉市を紹介しよう」②

TSGW spiral stage 4

SDG s を意識した学びを重ねたことで、千葉市の未来に向けて、実現の可能性を考えた提案をするようになった。例えば、未来の学校の場所や農業を中心とした学習内容、交通機関を整備して停車駅を増やすなど、具体的に発案する姿があり、SDG s を意識した学びが、社会貢献への意欲となった ([資料8])。



[資料8] 千葉市を農業体験中心とした教育に

オ <全体を通して>

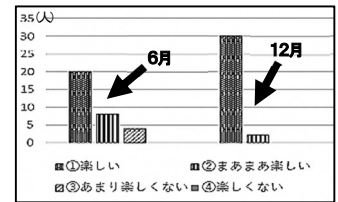
総合的な学習の時間を核にして、学んだことを生活で生かすようになった。児童が、「世界のSDG s 達成

を願うようになってから、身近なことを大事にすることが、他の国や地球にもつながる」という思いをもつようになり、国際社会の一員として Well-being の実現に向かおうとしている姿が見られるようになった。

(3) 中学年児童の意識の変容

①SDG s を意識した対話・協働的な学び

SDG s と出合ってからすぐにアンケートを取ったところ、児童は「SDG s を意識しながら友達と学習することは楽しいか」という項目に対し、「楽しい」と答えた児童が6月の20人から12月には29人に増加し、友達と対話的・協働的な学びを行ったことで楽しさを感じている様子が分かった ([図1])。また、前期終了時に行ったアンケート

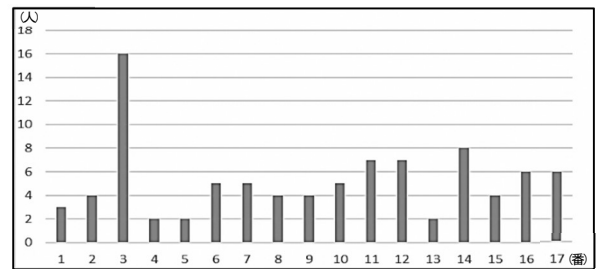


[図1] 「SDG s を意識しながら友達と学習することは楽しいか」

「自分の住んでいる地域でできることがあると思うか」では、29人が「思う」回答した。「思わない」と答えた3名

は、「千葉市だけでなく世界に出て何かしたい」、「千葉市に限定するのではなく全部の場所を考えたい」、「思うのではなくすでにやっている」と回答し、社会貢献への意欲が高まる結果となった。

②自分の将来とSDG sをつなげる



[図2] 「自分が活躍できそうなSDG s目標」調査の結果

自分が活躍できそうなSDG s の目標についてアンケートを取ったところ、「3 すべての人に健康と福祉を」「11 住み続けられるまちづくりを」で、自分が貢献できそうなことと結び付けている様子があった。総合的な学習の時間の学びが土台となっていることも考えられる。健康と安全、住み続けられる千葉市を意識して実践したことで、未来に向けて活躍できることは何かについて意識付けたと言える ([図2])。

自由記述欄 ([表3]) で、「先生になりたい」と書いた

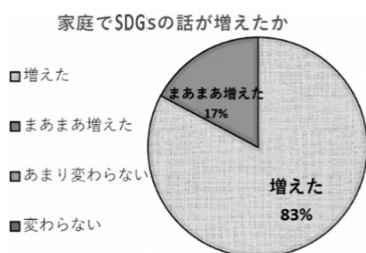
児童に理由を聞くと、「地球の未来を考える子供たちを育てたい」と答え、社会貢献への意欲を高めている様子があった。また、「千葉県だけでなく、SDG sをもっと広げて考えたかった」と記述する児童もいて、単元構成の課題も見えた。「SDG sは、将来のために学校で必要か」に関しては、6月の時点で「必要ない」と答えた児童が4名いたが、12月のアンケートでは、全員が「必要である」と答えた。必要性の理由は、「SDG s学校を作り、SDG sの目標に沿った授業も作りたい」、「SDG sは100人の中で10人が頑張っても達成できないから、皆が協力しないといけない。自分のよいところをいっぱい伸ばして世界のために頑張る」など、自己効力感を高め、Well-beingを実現しようとする意識につながる内容となった([表3])。

【表3】児童アンケート自由記述欄

SDG s学校を作り、SDG sの目標に合った授業も作りたい。
SDG sは、物、生き物、命の大切さを教えられて自分も先生になりたい。
道徳や総合などで地球がかんきょうを良くするために、勉強もいっぱいやって、すごい人になりたい。
「②きがゼロに」を達成したいです。農業をすれば食料が増えるのではと考えました。家でもっと必要だな。
SDG sは100人の中で10人ががんばっても達成できないから、みんなが協力しないといけない。自分のよいところをのばして世界のためにがんばる。
SDG s、持続可のう、3D2s3年2組の目標、つまり、3年2組の目標を持続可のうにして協力の心を大事にする。
SDG sは全ての教科につながっていると思うし、夢がある。
SDG sは人の心の向きを変えてくれる、とてもすごい力、えいきょうがある学校の学習では、ぜったい必要、多くのことを知り、体けんすることはわるいことではないので他の学校の子供たちにもSDG sを広めてほしい。

(4) 家庭へのSDG sの広がり

3年生の児童は、家庭でSDG sをどのように実践をしているのかを調査し、32家庭中28家庭の保護者が、「SDG sに



【図3】28人アンケート結果

ついての話をするようになった」と回答している([図3])。自由記述欄では、「食べ残しをしない」、「廃棄物を使用して工作をする」、「無駄な買い物なし」、「自分に自信をもって将来の目標に向かって取り組んでいる」、「SDG sを通して、夢も膨らんだように感じる」、「登校中にごみ拾いをしている」等、児童が家庭でも前向きにSDG sを意識して生活する様子があり、家庭への広がりが見られた([表4])。

【表4】保護者アンケート自由記述欄

SDG sの12番ってなんだと思う？正解は「つくる責任、つかう責任」だよ！というように、家族にクイズを出しています。それを聞いたひこ、本当にそうだな、意識して過ごさないと、と思わされます。
3D2SがあることやクラスのSDG sの意識の高さについてよく話します。
SDG sについて話すときには、生き生きとした表情で、全ての項目について自信いっぱい話します。将来の夢が膨らんだそうです。
海をきれいに、ごみ削減、いった話や貧困についてなどを話していました。
会話の中に、「SDG s」「地球温暖化」「飢餓をゼロに」「二酸化炭素」等の言葉がよく出てきます。TVで連想するような場面から自分で考えて、「地球温暖化につながるね」と言って意識しています。
街中にごみが落ちているとSDG sの話をしてくれて、本人も、登校中にごみを拾っています。ごみ袋を常に持っています。
給食を残して無駄にしないよう、食べられる分だけ取るようにしていることや、エアコンの温度設定なども、皆で相談しながら決めて省エネに努めている等を話してくれます。

4 研究成果と課題・今後の展望

(1) 成果

TSGW spiral stageを基に、対話的な学びを取り入れたことで、児童は、「日々の学びが世界につながっている」という思いをもつようになった。また、自分が考えた目標を基に、地球市民の一員としてできることを頑張りたい、という思いをもつようになった(Well-beingの視点)。また、教師が児童に合った学びをファシリテートしたことで、社会貢献への意欲を身に付けさせ、家庭への広がりにもつなげることができた。

(2) 課題・今後の展望

本研究を通して、SDG sを意識し「国際社会の一員としてのWell-beingを実現しようとする児童を育成」することができたが、フィールドワーク(形式知が実践知となる活動)を行うことができなかったため、実体験としての成長までは至らなかった。今後は児童の主眼的な考えを基に、実際に行動ができるようにしたり、評価の方法を考えたりしていきたい。その際、OECDの「The Anticipation-Action-Reflection(AAR) cycle」を参考にしながらPBL型学習を積み重ね、行動レベルや評価ステージを開発していきたいと考える。

【脚注】

注1) 文部科学省 日本ユネスコ国内委員会概要より
「世界をより平和的、包括的で安全な、持続可能なものにするか、そのために必要な知識、スキル、価値、態度を育成していくかを包含する理論的枠組み」

【主な引用/参考文献等】

- ・ UNITED NATIONS(2015) 『SDG Indicators』 Report
- ・ N.F.S.ガルトガイ著 小池直人訳(2014) 『ハイスコア上下』 風媒社
- ・ オルパカ ベノ著 佐藤学訳(2007) 『「学力世界一」がもたらすもの』 NHK出版
- ・ 白井俊(2021) 『OECD Education2030』 ミネモア書房
- ・ 箕曲在弘(2021) 『人類学者たちのフィールド・教育』 カニヤ出版